

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



[特集2]

「次世代たたら協創センター」の1年

次世代たたら文化の 創造を目指して

©公益財団法人 日本美術刀剣保存協会

vol. **44** 2020.4

[特集1] 島根大学のグローバルな取り組み

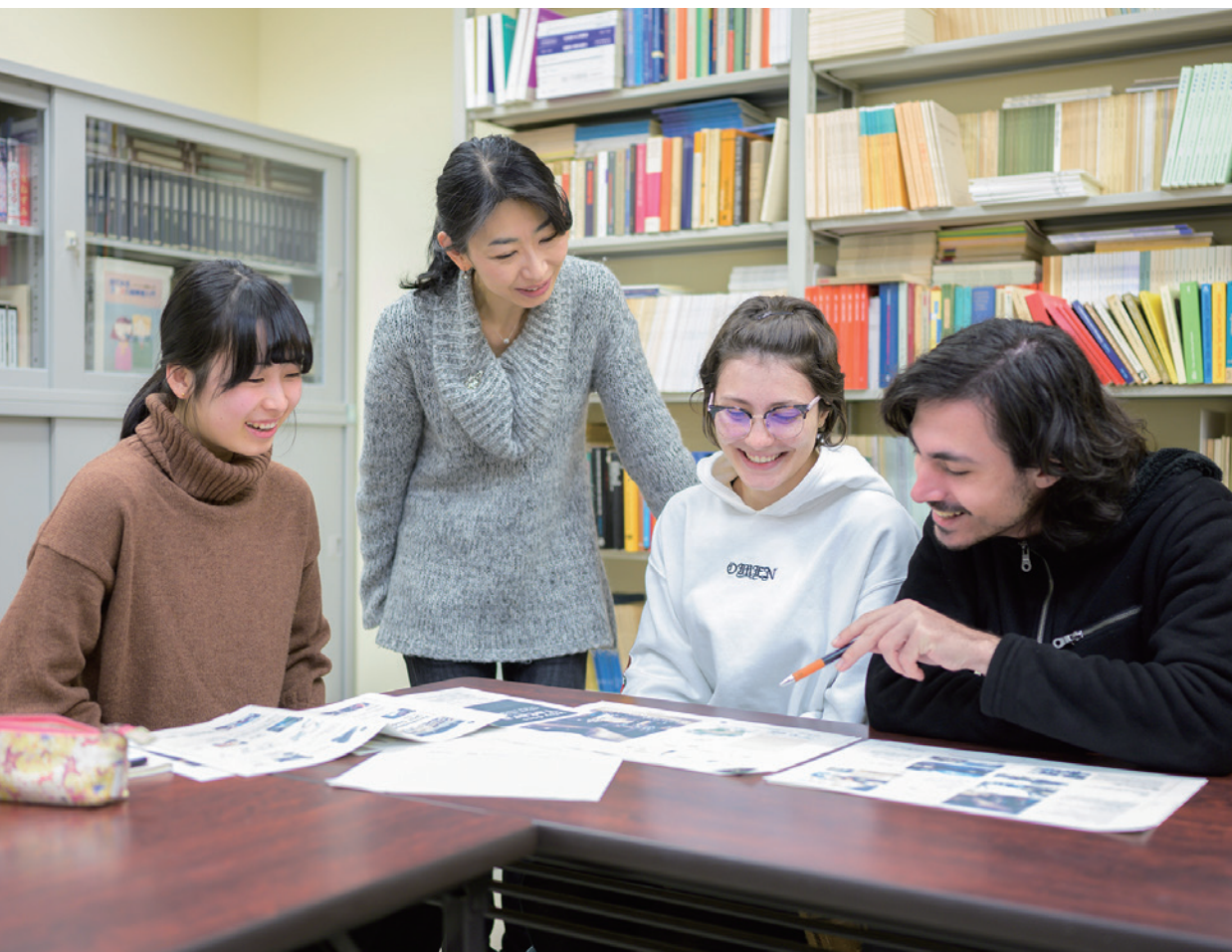
特色ある教育で世界と地域の発展に寄与

島根大学のグローバルな取り組み

地域と国際社会で活躍
グローバルな感性を育む
多種多様な取り組み

島根大学では、人材育成の大きな柱の一つとして、国際感覚あふれる幅広い視点を身につけ、国際社会を舞台に活躍できるようなグローバルな教育を展開しています。そのため、世界29の国や地域の103の大学・機関と交流協定を結び、多くの島大生が海外へ留学し、また海外からも多くの留学生が島根大学にきて学んでいます。

昨年度は初の試みとして、グローバル意識の向上を図る「しまだい留学WEEK」や「島大グローバル月間」などを学内で実施し、期間中は各学部や関連施設で様々な催しが行われました。今後このような企画を実施し、学生及び教職員のグローバル意識の高揚を図るとともに、大学のさらなるグローバル化を推進していきます。



vol.44 CONTENTS

■留学生・留学体験紹介	09
■島根大学の研究・地域貢献事業紹介	
①法文学部 嘉村 雄司 准教授	11
②総合理工学部 白井 匡人 助教	13
③生物資源科学部 室田 佳恵子 教授	15
■特色ある教育	17

■社会で活躍する卒業生	19
■しまだい便り	21
■島大アドバイザー	23
■しまだい's サークル	24
■島根大学支援基金より	25
■読者プレゼント	25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

取り組み

1

しまだいい留学WEEK

島根大学の海外留学制度や海外短期研修プログラムなどの情報発信を通じて、海外留学する学生の増加を目的に、「しまだいい留学WEEK」を4月15日～19日の5日間開催しました。

海外に目を向ける きっかけづくり

令和元年度に初開催した「しまだいい留学WEEK」では、海外研修や留学に関する説明会やイベントを実施しました。特に新入生に対しては、入学後の早い段階から海外留学や国際交流に目を向けてもらうため、



1.フランス留学についての質疑応答の様子。2.留学WEEKがきっかけで中国留学した植田さん。

この時期の開催となりました。期間中は、留学制度の概要を説明する新入生向けセミナーや留学経験者から直接体験談を聞ける報告会、留学生も交えた交流会、各学部や島根大学生協が主催する多様な海外研修プログラム説明会などを毎日実施しました。

学生の意欲をさらに高める 各種取り組みを継続

5日間で実施した取り組みには、延べ300人以上の参加がありました。参加した学生からは「様々な形の留学があることがわかった」「留学に必要な語学力がわかり、目標ができた」といった声が数多く寄せられました。「しまだいい留学WEEK」が留学への第一歩となるよう、今後も内容を発展させながら継続していきます。令和二年度は4月20日～24日の期間、新たな企画なども取り入れて実施する予定です。

VOICE



生物資源科学部
農林生産学科
2年

森原 よし乃さん

充実のサポート！

高校生の頃から大学生になったら海外に行ってみたい、留学してみたいと思っていましたので、入学後すぐにしまだいい留学WEEKで短期研修や留学についての説明を聞きました。奨学金制度やサポートもしっかりしているので安心して海外研修へ行くことができました。



総合理工学部
物理マテリアル工学科
2年

植田 大地さん

中国へ短期留学！

しまだいい留学WEEKのイベントに参加した際に短期留学のことを知り、7月末から北京大学に1ヶ月間留学しました。自分自身の価値観や外国に対するイメージが変わり、もっと海外について知りたいと思うようになりました。次は長期で留学したいと考えています。

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだいい
Shimane University

2020.4 vol.44

【特集1】
島根大学のグローバルな取り組み 01

【特集2】
次世代たたら協創センター 05

【特集3】
オールしまね協働教育フォーラム 07

島大グローバル月間

初の試みとして、2019年11月を「島大グローバル月間」と定め、1か月を通して国際交流やグローバルに特化した様々なイベントを開催しました。

大学全体で取り組むグローバル化の推進

「島大グローバル月間」は、教職員と学生のグローバル意識の高揚を図り、大学全体でグローバル化推進の取り組みを活性化することを目的としたものです。期間中は、海外留学制度や短期海外研修プログラム等を紹介する留学説明会、留学生との国際



1.地元の産業について英語でプレゼンする「Love. Local. Shimane」。2.国際的な研究交流・学生交流に熱心な教職員によるセミナー。

交流イベント、国際的な研究交流・学生交流に熱心な教職員によるセミナー、島根大学におけるグローバルな教育・研究活動を取り上げた展示、学食での国際色豊かな料理の提供など、大学のグローバル化を実感できる様々な企画が用意されました。

医学系の学生もグローバルな視点を

出雲キャンパスの医学部では、海外研修説明会や留学生を交えた英会話レッスンなどが実施されました。中でも、海外留学セミナーには多くの学生が参加し、講師の話に熱心に聞いていました。参加者からは「留学について具体的に考える良きっかけになった」という声が上がりました。



1.ニュージーランド医学・看護学研修の様子。2.海外留学セミナーの様子。

留学生と日本人学生の相互理解をより深める

留学生向けのイベントも数多く企画され、地元文化を体験するツアーや留学生向け部活動体験会などを通して、学生同士の交流も進みました。留学生が母国を紹介するイベントでは、留学生が母国の歴史、文化、風習などについて紹介し、日本に留学した理由や、母国と日本との違いを語りました。忘れ物が無事に手元に戻ってきたエピソードの紹介があると、参加した留学生は大きく頷きながら同調し、日本人学生は日本の特長を再認識する場面がありました。



1.手銭記念館で箱の紐の結び方を体験する留学生たち。2.JENESYS2019ミャンマー派遣報告会の様子。

VOICE



自然科学研究科
環境システム科学専攻
修士2年

グエン・ボ

Nguyen Voさん

地域文化に触れる！

出雲市の手銭記念館へのツアーに参加しました。手銭記念館には英語での展示説明もあり、学芸員による丁寧な説明のおかげで、外国人の私でも展示内容を大体理解することができました。ご当主をはじめ手銭家の皆さんが非常に歓迎してくれたことが印象的でした。



総理工学部
機械・電気電子工学科
2020年3月卒業

小木曾 遼河さん

異文化理解の深化！

期間中は「Love. Local. Shimane」に参加し、島根を様々な面から英語で学んだことで、一層島根が好きになりました。他にもJENESYS2019でミャンマーへ行き、途上国と日本の繋がりや、海外で活動する上で必要な異文化理解の重要性を学ぶことができました。

取り組み
etc

全学・学部での取り組み

島根大学では、外国語教育センターをはじめとする各センターや、各学部、研究室でもグローバルな取り組みを展開しています。

英語力を高めるコンテスト

例年6〜7月に開催される「島根大学長杯英語スピーチコンテスト」は、参加者が英語を用いて自分の想いや考えを伝えるコンテストです。留学経験者はもちろん、留学したことのない学生や大学

院生、英語を母語としない留学生も参加します。その準備段階で英語圏から来た留学生の助言も受け、英語力を高めています。また、審査の間、海外研修に参加した学生による研修報告も英語で行っています。

行っています。



スピーチコンテストの様子。

観光パンフレットの作成

法文学部言語文化学科フランス言語文化研究室では、出雲市や雲南市の

地元自治体の観光パンフレットのフランス語版作成をフランス人留学生と日本人学生が一緒に取り組んでいます。山陰地域の文化や産業を国内外に発信し、地域の在り方や将来の可能性についてグローバルな視点で主体的に考える活動として、地域における国際交流活動や観光客誘致・インバウンド推進に貢献する機会となっています。



パンフレット制作のため雲南市を訪れた学生たち。

米国最高水準の教師教育を

教育学部では、教師教育分野で25年連続全米1位を誇るミシガン州立大学と協働し、年に2回（6月に島根大学、2月にミシガン州立大学で開催）両大学の正規科目を合同開講しており、今年で8年目になります。島根では、日米の学生それぞれが持つ知識や経験、教育観や世界観を生かして共同で授業をつくり、地域の学校で授業実践を行います。ミシガン州では、日本人学校や格差是正に取り組む教育実践を見学するなど、多様な価値観に触れ、新たな教育や社会のあり方を学びます。

留学を応援!! 様々なサポート

島根大学には、意欲ある学生の留学やグローバルな取り組みを、時間とお金の面からサポートする仕組みもあります。

サポート1

フレックスターム・ギャップタームの活用

令和元年度より、前期の授業期間終了後の4週間をフレックスタームとし、インターンシップや海外留学など自主的な学習を促進する期間としました。また、フレックスタームと夏季休業を合わせた期間をギャップタームとし、この期間にも短期(中期)の海外留学、長期インターンシップ、ボランティア活動などに参加し、自己研鑽に努めるための時間を提供しています。

サポート2

奨学金の支給

海外にチャレンジする学生を支援するため、島根大学では留学期間などに応じて返済不要の奨学金を支給しています。

●島根大学短期海外研修プログラム奨学金
…各学部等が実施する海外留学・研修プログラムに参加する人向け

●島根大学グローバルチャレンジ奨学金
…長期の交換留学、海外でのボランティア活動やインターンシップ等を主な目的とするプログラムに参加する人向け

奨学金の
詳細は
こちら



NEXTA（ネクスタ）始動から1年 次世代たたら協創センターの歩み



©公益財団法人 日本美術刀剣保存協会

「次世代たたら協創センター」（通称：NEXTA）が設立され1年を迎えました。これまでの取り組みを振り返るとともに、今後の展開についてご紹介します。

2018年11月、鳥根県の基幹産業である「たたら製鉄」の伝統を受け継ぐ特殊鋼関連産業及び金属材料に関連する研究を発展させることで、鳥根県を『先端金属素材の聖地』としていくことを目的にスタートした「先端金属素材グローバル拠点の創出・Next Generation TATARA Project」。このプロジェクトの中核を担う共同研究所として鳥根大学内に立ち上げられたのが「次世代たたら協創センター」です。

この1年間、超耐熱合金研究の世界的権威であるオックスフォード大学のロジャー・リード教授をセンター

長として迎え、金属材料分野における高度な人材の育成と世界最高水準の研究拠点づくりを着々と進めてきました。本年1月31日、2月1日には、リード・センター長が服部学長とともに、日本刀の材料となる玉鋼を伝統の技法「たたら製鉄」で製造する鳥根県奥出雲町の「日刀保たたら」で操業を見学し、プロジェクトの持つ意義について気持ちを新たにしました。



今後は、リード・センター長による超耐熱合金の集中講義、オックスフォード大への学生派遣、大学院での新たな副専攻実施などの事業もを行い、研究開発や先端素材のエキスパートとなる人材育成を目指し、活動していきます。

これまでの取り組みPick Up

詳細やその他の取り組みはセンターHPをご覧ください。



リード教授による 高校への出張講義in松江

松江市内の3つの高校で出張講義を行いました。金属や合金の重要性などについて分かりやすい講義を行い、高校生からも好評を得ました。



島大生のための 松江高専・機械工学実験

松江高専にて、島根大学の学生を対象に工学実験実習の授業を実施しました。機械加工及び実習等を通じて、課題解決のための基礎的知識や方法論を学びました。



高校生のための 金属工学実習プログラム

5日間の日程で開催され、松江市内の高校から合計18名の生徒が参加しました。高校の授業とは雰囲気異なる実験やグループ学習に真剣に取り組みました。



オックスフォード大学での ワークショップ

島根大学、日立金属(株)、島根県のメンバー16名がオックスフォード大学へ行き、リード・センター長の指導で行われたワークショップに参加しました。



NEXTAについて
詳しく知ろう!

NEXTAの紹介動画が
完成しました。



秋重 幸邦

島根大学理事・副学長
(学術研究・イノベーション創出担当)

NEXTAの今後
2018年10月から始まった「たたらプロジェクト」は、実質1年が過ぎ、オックスフォード大学との連携や地元企業との共同研究が着実に進んでいます。学内に新築する建物の基本設計もでき上がり、2020年度には建物が完成するとともに、実験装置が導入され教員も採用されます。産学官が一体となって進めるオープンイノベーションの拠点として、超耐熱合金の材料設計から航空機エンジン部材の開発まで、世界に輝く研究がいよいよ本格化します。

地域で活躍する人材育成と県内定着を目指して

オールしまね協働教育フォーラムを開催



2月18日(火)、島根大学松江キャンパスの大学ホールを会場として「オールしまね協働教育フォーラム」を開催し、地元企業、行政、教育機関などから約120人が参加しました。

地域貢献人材の育成

5年間の事業成果と今後

本学では、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、「地域未来創造人材の育成を加速するオールしまね協働事業」として地方創生に向けた取り組みを県内高等教育機関及び県と連携して実施してきました。

本事業が最終年度を迎えるにあたり、第1部で島根大学地域未来協創本部の高須講師より5年間の成果について、量の成長・質の成長・面(つながり)の成長という3つの観

点から報告がありました。5年間の事業を通じて島根大学における卒業時社会増減が、社会減から社会増にゆるやかに移行していることや、本事業で設立した協働教育パートナーシップ制度の登録団体へのインターンシップ参加者数や新卒就職者数が増加傾向にあることなどが報告されました。

第2部では、学生と地域の企業・行政・団体等との協働教育の事例報告及びワークショップを実施しました。ワークショップではグループに分かれて、問題解決のための思考ツールを学び、学生と大人の自由な発想から、企業との協働プロジェクトに関する様々なアイデアが生まれました。

令和2年度からは、県内高等教育機関と企業、県等がコンソーシアムを設立し、地域を支え、地域で活躍する若者の人材育成と県内定着を目的とした取り組みを、今後も継続・発展させていく予定です。

学生 × 地域 活動事例報告

第2部で実施された協働教育の事例報告で発表された学生による取り組みを紹介します。

島根大学×中浦食品株式会社 キャリアデザインプログラム



地元産品を使った 新商品の開発

食品・企画開発に関心のある学生でプロジェクトチームを結成し、アンケート調査やターゲット層の決定、試食開発を繰り返し、1年間かけて「15(いちご)時のパイまんじゅう」の商品完成にこぎつけた。今後は販売促進活動にも力を入れていく。

島根大学×隠岐の島町教育委員会、 松江スポーツアクティビティ、 隠岐の島町総合体育館ほか シマスポプロジェクト



スポーツを通じた 地域のつながり創造

隠岐の島町の小学生に普段できないスポーツを体験してもらおうと、トランポリンやバブルサッカーなどが楽しめるイベントを実施。離島ゆえに様々なスポーツを楽しむ機会が少ない子どもたちのための環境づくりを今後も継続していく予定。

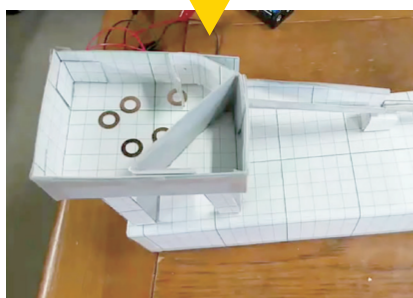
島根大学×島根県教育委員会 カエルプロジェクト



高校生と大人の 座談会で意識改革

しまね大交流会における「高校生向けセミナー」を企画実施。「航海してきた大人たち」と題し、参加した大人たちに自身の人生地図を作成してもらった。それをもとに高校生と大人の座談会を行い、高校生にとっては地元の見方を変えるきっかけとなった。

松江工業高等専門学校×ヒラタ精機株式会社 遊星歯車の手組作業の 効率改善



作業速度を あげるための方策

ATトランスミッションの一部パーツにおける手組作業の速度上昇に取り組んだ。現在の作業時間や作業場を計測し、解決策の方向性を決定。パーツフィーダの作成、ワッシャ入れ物の改良、スライドガイドの作成により、30秒の短縮を実現した。

島根県立大学×島根県、大田市 学生の石見地域研究事業 in大田市波根町



地域経済と 地域住民活性化

島根県による「学生の石見地域研究事業」の一環で、大田市波根地区を訪れ、ヒアリングにより現状を調査。地域資源を生かした観光客の増加、地域住民の交流による地域活性化、地域コミュニティ維持について具体的な方策を提案した。

島根大学・島根県立大学×島根県、邑南町、 NPOはすみ振興会、株式会社ツチヨシ産業 問題解決プロジェクトin邑南町



地域・企業が抱える 悩みを解決

島根県主催の「しまねDEEPまちツアー」で邑南町を訪問。邑南町の企業や地域を見学し、ヒアリングをしながら、従業員の雇用やデマンド交通維持など企業やNPOが抱える問題について、原因や課題をまとめ、解決策の具体例を提案した。

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界29か国・地域、103の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

FROM



出身国

ミャンマー

ニェ・イ・ウィン
NWE YI WIN さん
(教育学研究科大学院研究生)



人の温かさに触れながら
日本の教育について学ぶ

母国で高校の英語教員をしています。日本で教員経験のある先生から英語を教わって英語好きになったことや、世界的に見て日本の研究力が高いことから、日本の教育を学びたいと留学しました。現在、数学教師の教室運営と生徒に及ぼす影響について研究しています。調査から、フィードバック・対話型・モチベーションという3要素が重要だと分かったため、今後の教室運営に生かしたいです。附属義務教育学校に行く機会もあり、日本の教育現場は教材が豊富で、実体験によって、より理解を深めやすい環境にあると感じました。島根大学には学ぶための設備や環境が整っているのももちろんですが、一番強調したいのは「人の良さ」です。先生や職員、学生の皆さんが本当に親切で、温かく受け入れてもらえたことに感謝しています。



1. 幼稚園を訪れ、子どもたちと英語によるアクティビティを行った際の一コマ。2. いろんな国からの留学生の友人と花見に行きました。

TO



タイ

留学先



よしおか ゆき
吉岡 優希 さん

(法文学部 社会文化学科 3年)



1. チェンマイ大学の学生と一緒にチェンマイの伝統料理を食べに行った際の一コマ。2. チェンマイ伝統の踊りを見たあと、一緒に踊りも挑戦しました。



1.

一瞬の出会いを大切に！ 人との出会いが収穫に！

松江の観光に興味があり、もっと広い視野で観光を考えようと、チェンマイでの研修に参加しました。現地では、大学の先生や学生をはじめ、様々な人との出会いの連続でした。中でも一番印象的だったのは博物館のスタッフさんで、展示の説明する際に、日本でいえばこんな道具といったように、日本の例を交えながら話してくださいました。英語だらけの環境の中で、ふと日本の話題が出たことで、すごく安心感や親近感を覚えました。期間中の様々な出会いを通じて、たとえ一瞬の関わりだとしても、その場その場で出会う人とどうしたら上手く関わっていけるのかについて、考えるようになりました。IT化が進む中でも、人だからこそできることを大切にしていきたいと思っています。

TO



アメリカ

留学先



いわお ひろき
岩尾 大輝 さん

(総合理工学部 機械・電気電子工学科
2020年3月卒業)



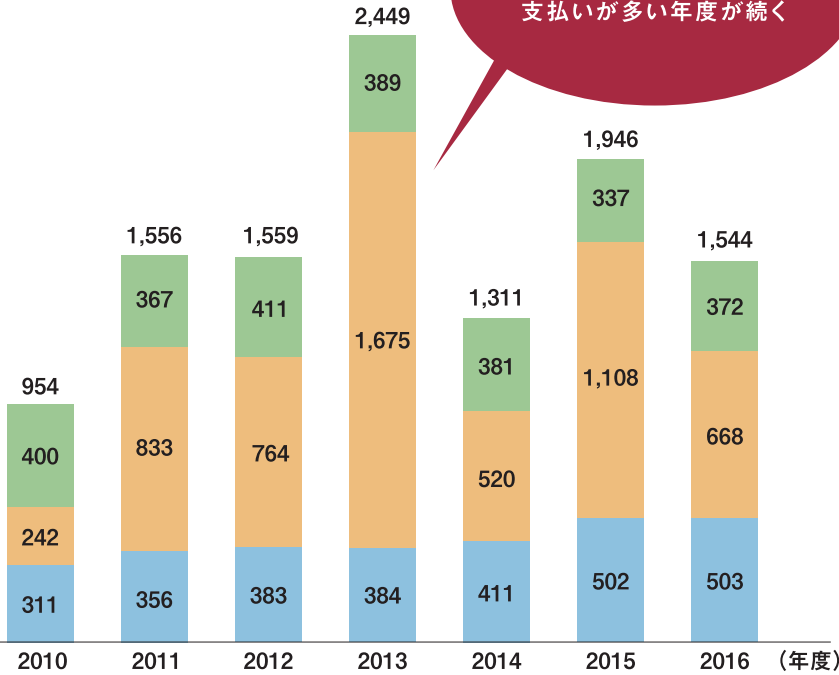
1. 研修修了時、修了証を受け取った際の様子。2. シアトル・マリナーズの球場に野球観戦に行った際の球場の外観。本場での観戦に感動しました。



1.

百聞は一見に如かず！ 経験は仕事に活かしたい

僕が志望する工学系エンジニアは、業務上海外とのやりとりも多いため、海外について少しは知っておいた方がいいのかなと入学時から考えていました。就活も終わり、時間に余裕ができた4年の夏季休暇を利用してアメリカへ3週間の語学研修に行きました。英語には自信があったのですが、試験問題に出るような英語と日常で使う英語はまったく別物だということを、身をもって体感しました。滞在1週間ほどで日常会話にも慣れ、固く考えていた英語も柔軟になりました。また、異なる文化が経験できたことで固定観念がなくなり、多様性をすんなりと受け入れられるようになったのも収穫でした。卒業後は大手メーカーでエンジニアとして働きます。業務において、今回の経験がきつと活きると思っています。



近年は自然災害
(風災・ひょう災、雪災、水災)の
支払いが多い年度が続く

「火災保険・地震保険の概況 2018年度版(2017年度統計)」損害保険料率算出機構

甚大な被害を生む水害 保険制度の課題捉え、 よりよい補償システムに

水害保険未加入率3割
被災時の補償が課題

日本では現在、台風や暴風雨、豪雨などによる洪水、高潮、土砂崩れなどの被害は火災保険における水災補償の対象となっており、一定程度の損害があれば保険金を受け取ることができます。場合によっては、被災者生活再建支援法などに基づく公的支援を受けることも可能です。しかし公的支援だけでは被災者の生活再建が困難であるにもかかわらず、水害リスクに対応する保険に加入している人は決して多くないのが現状です。

「火災保険の多くは水災補償がセットで付いており、建物を含む契約では約7割の方が加入していま

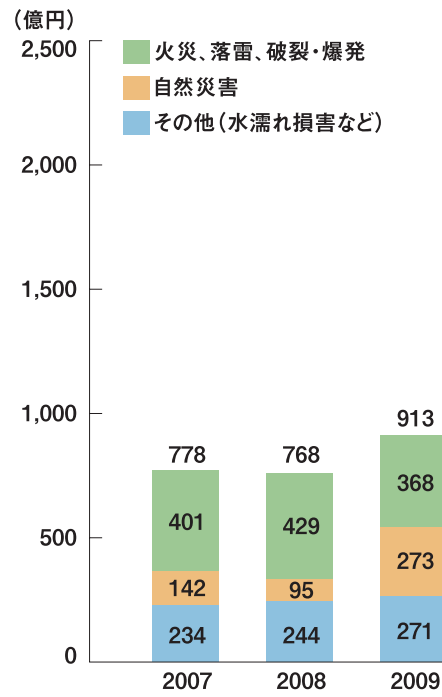
近年、梅雨前線・台風による集中豪雨やゲリラ豪雨で水害が数多く発生し、各地に甚大な被害をもたらしています。生命や身体の安全だけでなく、生活環境や財産が奪われることも少なくありません。法経学科の嘉村雄司准教授は、水害に関する保険制度の現状と課題について研究を進めています。



PROFILE

法文学部 法経学科
嘉村 雄司 准教授
かむら ゆうじ

松江市が昨夏発行した「防災ガイドブックハザードマップ」によると、洪水が起きた時に浸水する恐れがある地域が数多くあり、私が住む地域もどっぷり浸かります。でもマップの存在自体知らない方も少なくないのでは。今後自治体とも協力して、リスク管理を進めていければと思います。



1.火災保険金の支払い状況を示した図(「火災保険・地震保険の概況2018年度」)。近年は自然災害の支払いが多い年度が続いていることが分かる。2.松江市の防災ガイドブックで大学周辺エリアについて説明する嘉村准教授。3.令和元年度島根大学研究表彰・優良教育実践表彰式の様子。4.嘉村准教授の論文が掲載された『法律時報2019.11』(日本評論社)。

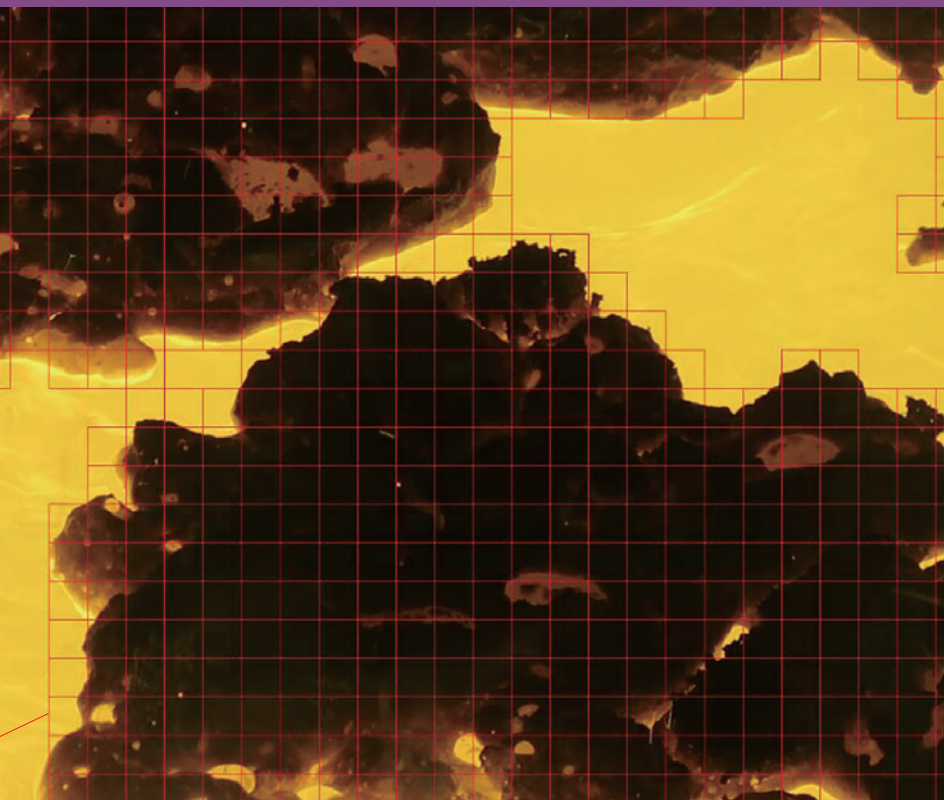
様々な学問分野から 洪水リスク管理を検討

元々デリバティブなどの金融が専門だった嘉村准教授。デリバティブと保険との法的差異を探る中で、両者が競合する分野になる自然災害に関心を抱き始めました。「工学系や行政法に比べ、保険の分野では地震以外の自然災害はほとんど議論されていませんでした。大学教員として、地域に役立つ研究

す。でも保険料節約などを理由に水災補償を削除したり、火災保険のみの古いプランのまま継続したりして、被災時に十分な補償が受けられない人もいます」と嘉村准教授。近年は自然災害の増加によって、保険料が上昇。さらに損保各社は、水害リスクの地域差に応じた料金設定の検討を始めています。嘉村准教授は、「リスクに応じた負担という考えは重要ですが、保険料が高くなれば入りにくくなる人がいます。国は水害リスクを周知するとともに、未加入で被災した人への対応や保険料率の上限なども考えていかねばいけません」。

をして社会に貢献したいという思いもありました」。法学や工学の研究者らが多方面から課題にアプローチする「洪水リスクマネジメント研究会」にも所属。「水害保険は、リスクファイナンスとしての役割に加え、リスクコントロールにも貢献しています。実務を含む多分野の人間が連携することは、今後より重要です」。

海外の制度研究にも熱心です。アメリカの洪水保険制度は、連邦政府の保証のもと保険金が支払われる一方、加入する自治体には氾濫原の管理が義務づけられ、管理の仕方によって保険料率も変わります。「洪水対策と保険を密接に結びつけ、政府だけでは難しい河川管理を地域や個人にフォローしてもらうアメリカの仕組みは、保険の分野だけでなく工学の分野でも重要視されています。保険の分野ではこれまで地震ばかり注目されて、水害対策の法的議論はほとんど行われてきませんでした。今後、論点の洗い出しを始め、課題をまとめていきたいですね」。最後に改めて嘉村准教授が強調します。「家の損害は非常に大きい。自分は大丈夫と思わず、リスクを認識してほしい」。



・学習データに4794枚(282)、テストデータに283枚の溶湯の画像
・学習の実行時間121秒、テストの実行時間0.43 秒

AI技術を活用し、 铸造工程を自動化、 生産性や品質向上に

铸铁の化学成分から AIで物性値を予測

大学生だった約10年前から、文書や画像の分類、テキストやマルチメディアの解析など、機械学習の研究を手掛けていた白井助教。島大に赴任した2017年に松江市の金属铸造加工会社「オーエム金属工業」の依頼を受け、AIによる铸造工程の自動化を目指した共同研究をスタートさせました。最初に手掛けたのは、銑鉄铸物の硬さや引張力強さなどの物性値を、化学成分から予測させることです。

従来の銑鉄铸物ではまず、さまざまな元素が含まれている溶けた金属(溶湯)からテストピースを作

ディープラーニング(深層学習)技術の発展やビッグデータの普及に伴い、今やマーケティングや医療、品質管理、自動運転など、さまざまな分野で活用され始めているAI(人工知能)。知能情報デザイン学科の白井匡人助教は、地元企業の抱える課題をAI技術を用いて解決する方法を探っています。



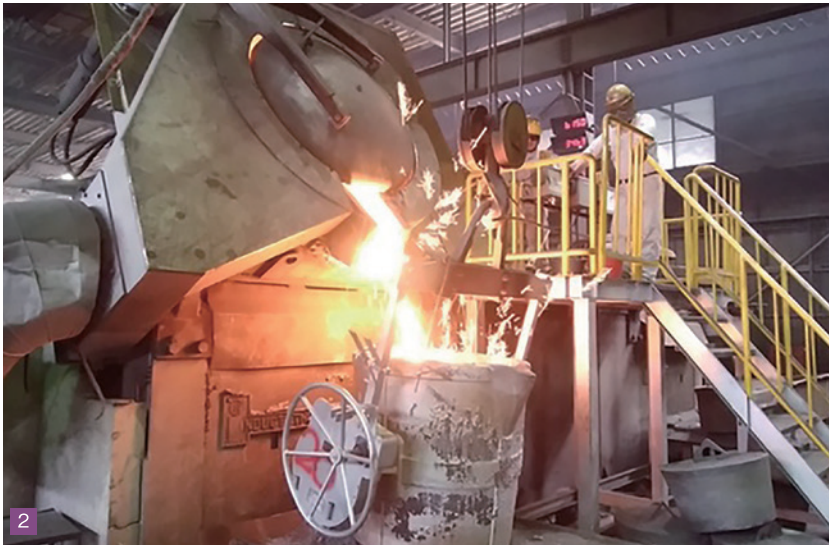
PROFILE

総合理工学部 知能情報デザイン学科

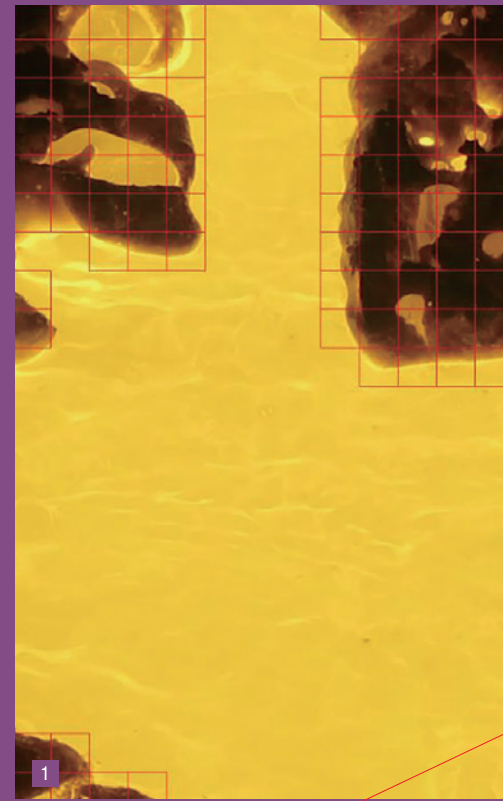
白井 匡人 助教

しらい まさと

データさえあれば機械学習による解析ができると思われがちですが、既存のモデルを使うだけでは解決できないことも多く、様々な手法を変えていく必要があります。学生には好きなことを研究テーマにすることで、幅広い視野とアンテナを張る意識を高めてほしいですね。



1. 溶湯内に浮かぶスラグを写した画像。赤枠の範囲が、スラグがあることを示している。2. 共同研究を行っているオーエム金属工業（松江市）の工場。3. 島根大学地域未来協創本部が主催する技術コミュニティラボにおいて、企業の方向けに発表を行う白井助教。



スラグと認識した格子を赤線で囲んだ結果
格子のサイズ：50×50ピクセル

り、固まった後に含有する元素の割合を測定。次に、同じ溶湯から作った試験片を専門の機械にかけて物性値を測っていました。白井助教はディープニューラルネットワーク（DNN）というモデルを用いて、会社が長年蓄積してきた化学成分の値と物性値のデータ数千件を学習させ、化学成分が分かれば性能検査をしなくても物性値を高精度に予測することを可能にしたのです。「基礎研究ではなく、企業から生データの提供を受けて行う応用研究は初めての試み。地元産業に役立ててうれいすね」と白井助教が笑みを浮かべます。

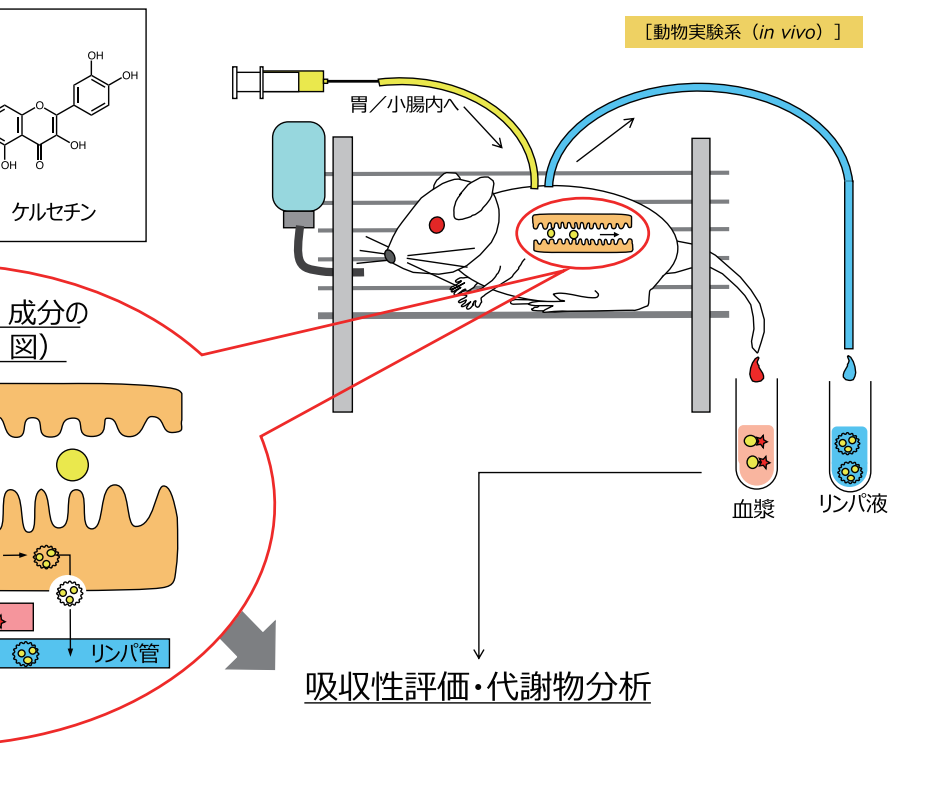
製造業でのAI活用進め 地元企業の課題解決へ

オーエム金属工業との共同研究では、画像認識の分野で優れた性能を発揮する「畳み込みニューラルネットワーク」を用いて、溶湯内の不純物（スラグ）を自動認識する試みにも挑戦（図1）。除滓剤の投入と不純物の除去を繰り返す作業は、危険で細心の注意が求められます。それをロボットで自動的に行えるようにし

たのです。また原材料や添加物の種類と量を入力すれば、できあがりの銑鉄鑄物の化学成分が分かるプログラムも作成。実測したところ誤差は規格の範囲内に収まったため、現場に導入できるようアプリケーションを作成しているところだということです。

「銑鉄作業では、熟練職人の経験や勘に頼らざるを得ない部分が少ないありませんでした。また鉄が溶けている高温の作業場で、不純物の除去を行うのは非常に危険でした。人手不足が叫ばれる中、AIの技術を生かすことで安全に高品質の製品を生み出すお手伝いができれば」。白井助教は、次世代たたら協創センターの教員も兼任しており、日立金属などと共同で金属の析出物を自動的に判定する研究なども行っています。

現在、製造業やソフトウェア関係など県内外から数社の協力依頼が来ており、「社会におけるAIの可能性の広がりを感じている」と語る白井助教。「AIができることは増えていますが、大切なのは観測値に加え、潜在的な要因を考慮して現実的な答えを導き出していくこと。日本では製造業でのAI活用が遅れているのもっと力を注ぎたい」と意欲を見せます。



注目集まる「機能性成分」 吸収性や代謝を解明し、 より効果的な摂取に

食へ方や調理法で
栄養の吸収性は変わる

タンパク質、脂質、炭水化物という三大栄養素に、ミネラル、ビタミンを加えた五大栄養素は、人間が生きていくうえで欠かせない必須栄養成分です。しかしそのほかにも食品の中には、病気の予防や健康維持に役立つ成分が数多く含まれています。それが機能性成分です。代表的なものとして、食物繊維やポリフェノール、カロテノイドや乳酸菌などが挙げられます。しかしどんなに優れた成分であっても、それが体内で何らかの作用をもたらさなければ意味がありません。「たとえば食物繊維などは体内に吸収されずに整腸や排泄

健康志向が高まる中で、「機能性表示食品」や「特定保健用食品(トクホ)」という言葉をよく耳にするようになりました。生命科学科の室田佳恵子教授は、食品に含まれる様々な機能性成分が体内でどのように消化・吸収され、代謝によってどう構造変化するのかというメカニズムの解明に挑んでいます。

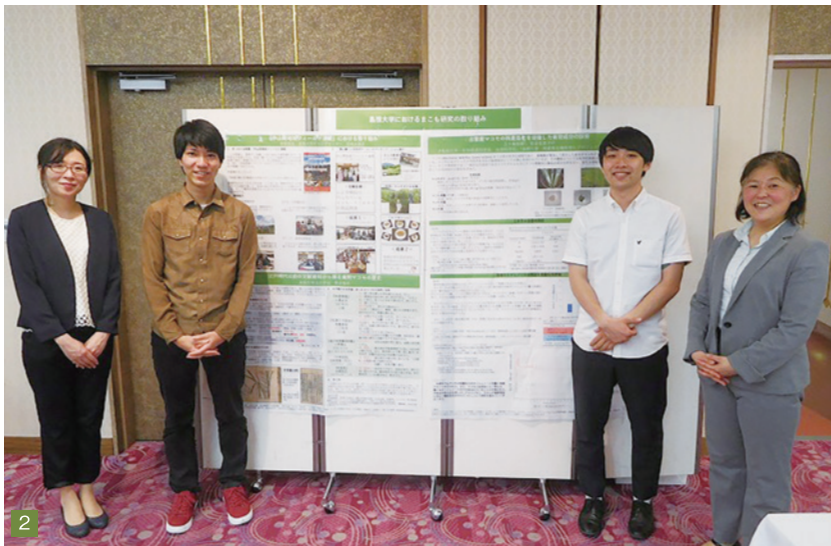


PROFILE

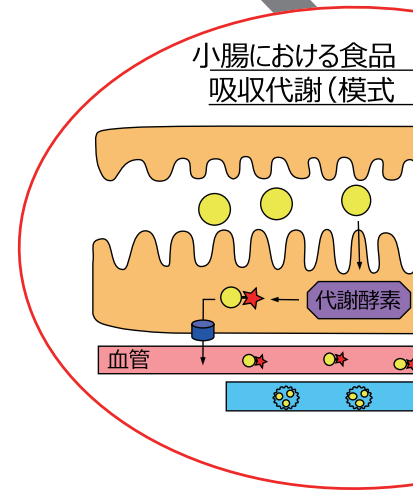
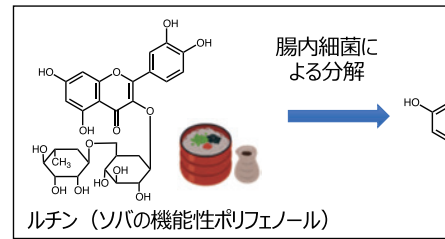
生物資源科学部 生命科学科
室田 佳恵子 教授

むろた かえこ

約15年前に在外研究員として留学したアメリカの大学の研究室は、教授から院生までメンバー全員が女性だった上、出身国もバラバラでした。そんなラボって日本ではまだ少なく、性別にこだわらず学生たちがもっと気軽に好きな研究を行える教育環境になれば、と改めて感じています。



1.食品中に存在する様々な機能性成分を摂取したときの消化吸収代謝機構についての研究「生体利用性研究」を図式化したもの。2.まこもシンポジウムにおいて、学内助成金「ご縁ネットプロジェクト顕彰」で行った研究のポスターを展示。共同研究者である法文学部の野本准教授(左)と、プロジェクトに参加した学生と一緒に。3.昨年夏に行われた、山陰の女子中高生を対象にした「チャレンジラボ」の様子。室田教授は実験講座を担当した。



1

を助ける効能がありますが、多くの成分は吸収されて必要な部位までたどりつくことで効果をもたらします。機能性成分がどこでどれくらい吸収されるのか、体内の酵素が作用することでどんな変化が起きるのか、が研究テーマです」と室田教授。栄養成分は、調理法や食べ方によっても吸収量は変わります。「そばに含まれるルチンは、水溶性があるから茹で汁も栄養価が高く、玉ネギに多いケルセチンは油に溶けやすいから生より油炒めにする方が吸収率が高いです。ちなみにルチンもケルセチンもポリフェノールの一つなんですよ」と例を挙げてくれました。

では、これらの栄養成分は体内でどんな経路をたどるのでしょうか。「食べ物はお腸で吸収された後、血流を通じて全身に回ることはいくらも知られていますが、脂質だけはリンパ管に入ります。たいていの栄養素は血管からリンパ管の二方にしかいかなないので、動物実験を経てケルセチンは両方にいくことが分かりました」。室田教授は世界で初めて、ケルセチンがリンパ管に入ることを実証したそうです。しかしそのメカニズムや意義は依然解

明されていません。「ケルセチンは吸収量が多い方が、体にいい可能性が高い成分なので、体内に入りやすい経路や食べ方なども研究しています」。

地元特産物の成分研究で高機能性の付加価値を

島根の特産食品に高機能性の付加価値を与えられる研究も進めています。昨年からは、雲南の里山グループらと協力してマコモの成分を調査。出雲大社の神事にも使われる馴染み深い植物に、抗酸化力などが期待されるポリフェノールが豊富に含まれていることも分かりました。「マコモに限らず、奥出雲原産のソバや、同大学発信の、出雲おろち大根など、地元特産物の成分を研究することで地域に貢献できれば」。長い人類の歴史の中で獲得されていった消化機能システムですが、まだまだ解明されていないことは数多くあります。「分子レベルの違いを体はしっかり認識して吸収したり、排除したりしています。体が食品成分をうまく利用するメカニズムを解き明かしていきたいですね」。

島根大学のココがすごい!

特色ある教育 5

今回紹介するのは… **数理・データサイエンス入門**



現代の読み・書き・そろばんとされています。その重要性を認識してもらおうと同時に、数理・データサイエンスを活用する心構えと基本知

データ分析の力を育む

数理・データサイエンス入門

今やデータは21世紀の石油と呼ばれるほどに経済価値が認められています。数理・データサイエンスを学ぶ上での基本知識を身に付け、データをもとに簡単な分析が自分のできるようになることを目的に、平成30年4月からスタートしたのが、数理・データサイエンス入門です。

文系理系の枠をこえて
データ活用の基礎を学ぶ

数理・データサイエンス・A-Iは

私が担当しています!



瀬戸 和希 助教

数理・データサイエンス教育研究センター

識を、専門分野関係なく全学生に身に付けてもらうために開講されました。

数学の使われ方を
身近な実例から知る

大きな特色は、島根大学の教員による活用実例の紹介です。数理・データサイエンスが最先端の研究において、どのように活用されているのかを知ること、これからの大学生活のモチベーションを高める狙いもあります。「数理」と聞くと苦手意識を持つ人もいると思いますが、数式の数を極力減らし、実例を通して数学がどのように使われているかを説明し



ています。講義を通して学生たちの数学への嫌悪感もだいぶ薄れてきたように思います。

データ分析の力を付け
次のステップへ

講義を通じ

て、量的なデータに一喜一憂するのではなく、データの背景に注目したり、データを批判的に読み取れるようになってほしいです。また、A-Iについて正しく理解して向き合ってほしいと思います。巷では、A-Iがあたかも人間社会を脅かすものであると誇張して伝えられています。A-I技術は人間社会を豊かにするための道具に過ぎません。正しい知識を身に付け、上手に共存する社会を実現してもらいたいです。

数理・データサイエンス入門の受講でこの分野に興味を持った学生には、さらに深く学べるように副専攻プログラムも設けています。データの分析は、分野を問わずいるんな場面で必要となる力です。入門以降の次の学びのステップに進んでくれる学生が増えてくれることを願っています。



島根大学では、学生が主体的な学びを通じて幅広い知識、広い視野、総合的な判断力を身につけ、人間への理解を深めるとともに、豊かな世界観を育むことを目的とした、様々な特色ある教育プログラムを展開しています。今回は、平成30年度からスタートした数理・データサイエンス入門を紹介します。



授業を履修しています!



尾崎 天音さん
人間科学部
人間科学科 2年

齊藤 武宏さん
総合理工学部
物理・マテリアル工学科 3年

数学が苦手でも大丈夫! 数学の捉え方が変わる

数理・データサイエンスという授業名を見た時には、文系の私は講義についていけるか不安でした。でも、データを扱う学問ということで、大学の卒業研究や就職後など様々な場面において活用できる力を身に付けるチャンスと考え、受講を決めました。この講義では適切なデータの取り方やグラフの見方、日常生活のどのようなどころに数理データの考えが使われているかなどを学ぶことができ、必ずしも数学の計算能力が必



要なわけではないため、数学が苦手でも比較的受けやすい授業です。もちろん高校で学習した数学の要素は出てきますが、どのような面で数学が役に立っているのかを知りつつ学ぶことができるため、数学の捉え方が変わりました。

与えられたデータを 疑ってみることが大切

もともと実験でデータを扱うことがあったので、データの扱い方や統計的に処理する方法に興味がありましたが、統計というところか難しい印象もありました。実際は専門の講義と違って一つひとつ丁寧に解説してもらえるので理解しやすかったです。また、グループワークもあり、グラフの種類やグラフから読み取れることを話し合い、能動的な学びで理解を深めることができました。講義ではグラフの見せ方についても学びました。テレビのニュースなどで見るものは適切という先入観がありました。が、実際には適切でないグラフ化もあることを知りました。グラフ化が適切でないと分析も適切にできませ

ん。見たものを鵜呑みにするのではなく、騙されない力をつけておくことも重要になると感じました。

データの扱い方を知れば 日常の見方も変わる!

講義でグラフの描き方や注意する点などを学んだので、グラフ



を分かりやすく見せる力がつきました。今後実験のレポートや卒業研究などでデータやグラフを多用するので、早速学んだことが活かせるのです。また、データの対象規模や出典、グラフの単位や表現方法を確認する習慣ができました。グラフは一目で変化や割合を読み取ることができると便利なものですが、そのまま鵜呑みにせずに確認することを継続していきたいです。情報化が進む今の時代に、データを適切に扱うことは文系理系関係なく必要になるので、学生のうちからそういった知識や方法に触れたことはよかったです。

社会で 活躍する 卒業生

A graduate of
Shimane University

No. 08

製造工程管理

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、島根島津株式会社で製造工程管理業務を担う石橋さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile

石橋 俊之 さん

島根島津株式会社
製造部生産管理課

島根県松江市出身。2015年3月、総合理工学部電子制御システム工学科(現:機械・電気電子工学科)を卒業。就職活動時期に会社訪問で島根島津株式会社を訪れ、業務内容に興味を持ち入社を決意。現在は製造部生産管理課にて、製造工程管理に関する業務を担当する。



デスクワークをする石橋さん。様々なチームとのやりとり・調整が必要な業務のため、コミュニケーション力も求められる。

研究室での学びが活かせる
スムーズな製造を支える
製造工程の管理役

分析機器や計測機器、医療機器などの総合精密機器メーカーである株式会社島津製作所。その製造子会社として、医療用機器の加工・溶接・塗装・組み立てを一貫体制で行っているのが島根島津株式会社です。

石橋さんは製造部生産管理課で、製造工程管理に関する業務にあたっています。本社から発注のあった機器についてクライアントが希望する納期に合わせて生産計画を立て、材料、加工、組立の関係各所に指示を出し、納期通りに製造ができるようにスケジュールの調

在学生の声が
もう少し多いと良いと
思います。

(島根県大田市・30代女性)

森戸先生の鋼の研究、
とても面白く
読ませていただきました。

(島根県江津市・80代女性)

大学のことだけでなく、
地域の歴史資料館等の記事が
島根の歴史を知る良い手がかりとなりました。

(島根県出雲市・60代女性)



仕事の休憩時間には、いつものメンバーでニュースの話題などで一息。

整や進行をコントロールするのが石橋さんの役割です。現在担当しているのはX線撮影装置のユニット4機種。「4箇所の生産ラインへの指示出しに加えて、注文に合わせ材料の手配も行います。時期によつては複数の案件を並行することもあるため、納期に間に合うよ

うに、すでに動いているラインとの兼ね合いも考慮しながら上手くまわるようにしています」。

生産計画を立てる際に必ず目を通すのが、製造する機器の図面です。「図面にはいろんな情報が書いてあるんですが、図面を見て、どのように加工するのか、どのような材質が最適なのかなどを読み取ったうえで、最も適切な発注をおこなう必要があるんです」。入社時に必ずしも全員が図面を読めるわけではなく、業務の中で経験を積んでいく人も多いのですが、石橋さんは大学の研究室で頻繁に図面を見ていた経験がとても役立つたといっています。

島根大学在学中は電子制御システム工学科に在籍し、電気回路や機械設計などを学んでいた石橋さん。歯車の図面を見たり、書いていたりしていたほか、風力発電で羽を早く回すための装置を設計してパソコンでシミュレーションしたりしていたそうです。「ちょうど研究室に配属された時にパソコンを新しくしてもらえて、CADや製図、データベースソフトのアクセスも使用できる環境にありました。今の業務でも活かせることがいくつもあったので、とても助かりました」と話します。

課外活動では剣道部の主将も務めていました。「剣道を通して精神的に強くなれたし、マナーや礼儀など、社会に出てから役立つことも教わりました。部活は週6回あったため、勉強とメリハリをつけた生活を送っていたことが、現在の仕事とプライベートのメリハリにも繋がっているのかもしれないです」と石橋さんはいいます。今でも週に1度は剣道の練習をしていて、部活の飲み会にもたまに顔を出すそうです。

様々な業務を経験し グループ間連携を円滑に 経験の積み上げを継続

小学校から大学まで、松江市内から出たことがなかったという石橋さんは、「就職先が今までで家から一番遠い場所なんです」と話します。地元で働きたいと市役所に就職相談に行った際に、島根島津のことを知り、興味を持ったそうです。3年生の3月には会社訪問にも参加。「楽しそうな会社だなと思いました。当初はものづくりができるかな...と思っていたんですけど、今のところはデスクワークがほとんどです」と笑います。出来上がりの

形が目に見えて分かるものづくりとは異なり、石橋さんが担当する業務は成果が見えにくい仕事でもあります。「自分で計画したものが予定通りに納品できた時はほっとしますし、やりがいを感じる瞬間でもあります。実際はなかなかスムーズにいかないこともあるので、まだまだ経験を積んでいきたいです」。

入社当時は本社からの注文を受けて計画チームに伝えるグループに所属し、約1年半前に現在の計画チームに異動してきました。受注から計画・指示をするという一連の業務を経験したことで、他のグループとの連携がとりやすくなったといっています。「将来的には、まだ経験していない他の工程のグループを経験してみたい気持ちもあります。それぞれの業務ならではの大変さややりにくさを経験しておけば、他のグループについても相手の気持ちを汲んで話ができるので、グループ間の連携もより円滑になると思っています。いろんな役割を経験して、なんでもこなせるようになればなと思います」。幅広くアンテナを張りながら経験を積み上げていく石橋さんの今後に期待がかかります。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.43に
寄せられた声をお届けします。

県外の研究拠点も
紹介してほしいです。

(島根県松江市・50代男性)

全国の大学より先端で
研究・開発されているテーマが
あれば紹介してください。

(島根県松江市・70代男性)

しまだいい便り

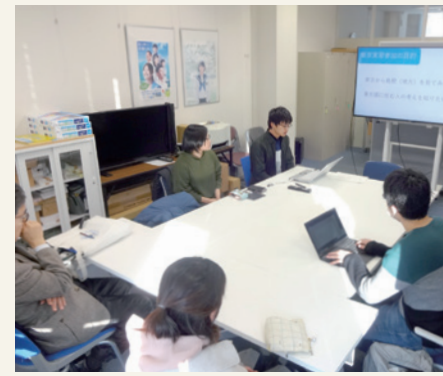
大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

東京で島根の魅力・可能性を再発見 「東京長期実習プログラム報告会」を開催



1月14日(火)、「東京長期実習プログラムの報告会」を開催しました。昨年9月から11月まで「地方と東京圏の大学生対流促進事業」の一環として9名の学生が「東京長期実習プログラム」に参加しました。地域経済とコミュニティの拠点を東京「巣鴨」に置き、巣鴨商店街にある空きスペース・空き店舗の活用方法を提案し、調査研究を行う「すがもプロジェクト」を実施しました。報告会では、4名の代表者を取り組みについてプレゼンテーションを行いました。他大学の学生と交流することの大切さや東京在住の学生の活発さが良い意味で刺激になったこと等、東京ならではの体験やエピソードも交えながら、熱く語られ、活気溢れる報告会となりました。

TOPICS

2

紅白出場の音楽バンド「ヒゲダン」が登場！ 島根大学プロモーションビデオ視聴のご案内



島根大学の魅力を発信する公式PVを公開しています。映像内では、昨年の第70回紅白歌合戦に出演し、メンバー3名が島根大学出身の音楽バンド「Official髭男dism (オフィシャルヒゲダンディズム)」に登場いただき、音楽とともに本学の学部・サークルなどを学生と楽しく紹介しています！県内の皆様、これから受験を控えている高校生の皆様、ぜひご視聴ください！

「Official髭男dism」の詳細についてはこちら(<https://higedan.com/>)をご確認ください。PVの映像はQRコードからご覧いただけます。



TOPICS

3

女性研究者支援 「M.W.E.D.O女子中学校での教育」を開催



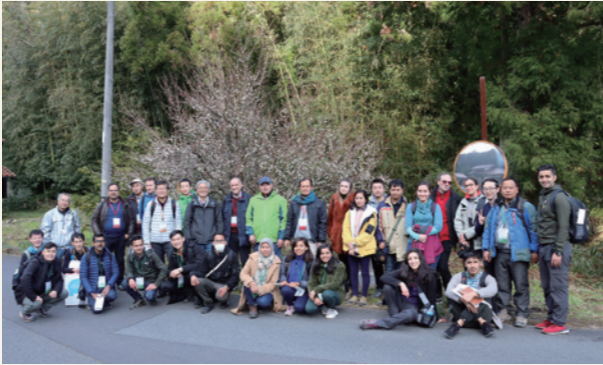
「島根大学女性研究者をリーダーとする共同研究プロジェクト支援事業」の助成を受けた松江高専との共同事業として、人間科学部全学オープン授業「M.W.E.D.O女子中学校での教育」を1月21日(火)に開催しました。タンザニアの教師ナウエシ・リジワさんとウイリアム・レムビレさんから、勤務先の中学校(マサイ女子対象)の教育目的や学習内容、寮生活について紹介いただきました。

卒業生が就職先で活躍している姿がとても良かったです。

(広島県世羅郡・50代男性)

大学のことに加えて松江の様子も懐かしく楽しめます。

(岡山県倉敷市・60代男性)



TOPICS

4 ユネスコフェアフィールドスクールを開催

地球環境災害軽減に携わる研究者や学生の学術交流

2月10日(月)～15日(土)にユネスコフェアフィールドの教育活動の一環として、島根大学ユネスコフェアフィールド(地球環境災害軽減)フィールドスクールを開催しました。今年度は2回目の開催となり、島根大学ユネスコフェアフィールドの協力研究者13名及び大学院生18名が参加しました。

10日(月)の開校式には、日本ユネスコ国内委員会副事務局長の平下文康氏、ユネスコ本部科学局から佐々木雅也プログラム専門官(地球環境災害軽減部門)にご出席いただき、日本及び世界範囲での災害軽減の重要性やユネスコフェアフィールドに関するリーダースHIPの必要性についてお話いただきました。フィールドスクールでは、大学院生向けの講義、石見銀山世界遺産周辺の活断層調査、斐伊川流域における洪水防止対策、河川管理の方法論等について県内各地でのフィールド見学・調査を行いました。

今後、国際的な講師陣、受講生による、ユネスコフェアフィールドできる模範コースとして、さらに充実したフィールドスクールを目指していきます。

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなの環境を守ろう!

山陰合同銀行

スッキリとした味わいで料理との相性も抜群!!
島根大学の芋焼酎 **神在の里**

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培されたサツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。

■神在の里の取り扱いお問い合わせは

島根大学生協同組合

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240
https://www.shimadai.coop/

新聞の折込みで WEB サイトで フリーペーパーで

お仕事見つかる **メリット**

情報発信を通じて「働きやすい街づくり」に貢献します

メリット 求人 検索

株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

TOPICS

5 ビジネスマッチング賞を受賞

大学発ベンチャー企業の精力的な取り組み



1月29日(水)～31日(金)に開催された「nanotech2020」において、島根大学発ベンチャー「株式会社SINANOTECH CoCreation(エスナノテック・クリエーション)」(代表取締役社長・藤田恭久教授)が「ビジネスマッチング賞」を受賞しました。様々な出展者や来場者と精力的に商談し、オープンイノベーションに取り組んだ点を評価されました。

読者の声
Voice

広報しまだい vol.43に寄せられた声をお届けします。

生物資源の中間先生の記事を読み、生活改善普及事業を行っていた。当時を思い出して懐かしくなりました。

(島根県浜田市・90代女性)

外部有識者から先進的で優れた意見を積極的に取り入れる 島根大学アドバイザー制度導入



アドバイザープロフィール

一般財団法人 地域・教育魅力化
プラットフォーム 共同代表

いわもと ゆう
岩本 悠

東京都生まれ。学生時代に20ヶ国の地域開発の現場を巡り、その体験学習記『流学日記』を出版。2007年より隠岐島前高校を中心とする人づくりとまちづくりに従事。2015年より島根県の教育魅力化特命官として従事。



有限会社竹葉
代表取締役副社長

おぼた みか
小幡 美香

島根県生まれ。さぎのゆ温泉旅館「竹葉」の3代目女将。島根の伝統芸能「安来節どじょうすくい踊り」宇川流准師範。安来節を唯一無二の観光資源と位置付け、名物女将「どじょうすくい女将」として「しまね観光PR大使」も務める。



新しい時代における大学の機能整備を進めるにあたり、大学運営や教育研究に関する専門的な知識や経験を有する学外者に指導、助言を受けるためのアドバイザー制度を新たに設けました。今回、初めてのアドバイザーとして、地域・教育魅力化を島根から世界へ発信している「一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム」共同代表の岩本悠氏とさぎの湯温泉旅館「竹葉」の女将で「島根を愛する名物女将」としてしまね観光PR大使も務める

小幡美香氏に委嘱状の交付式を行いました。

岩本氏については本学の履修証明プログラム「地域・教育コーディネーター育成プログラム」においてプログラムの開発支援や講師をしていただいたことから、コーディネーター育成の機会やノウハウの活用に係る今後の展開等については指導・助言を、小幡氏については今後、副専攻プログラムで観光コースを立ち上げるための指導・助言について期待がされています。

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

邦楽部

邦楽の楽しさが伝わるような演奏を！

箏や三弦、尺八など、古くから伝わる和楽器を演奏する邦楽部。初心者が入部も多く、1年生は先輩に教えてもらいつつ課題曲を練習し、邦楽の基礎を学びます。2年以上になると現代・古典曲問わず自分が好きな曲を選んで、パートに合わせてグループを組んで練習していきます。週に一度外部の先生を招いて曲の合わせを見てもらうため、そこに向けて授業の空き時間や夜など自主的に練習する部員も多いそうです。「邦楽を堅苦しいものではなく、ポップスみたいに身近に楽しんでほしい」と部長の網嶋さん。邦楽を楽しいと思ってもらえるような演奏を目指して、日々練習に励んでいます。



2.

1.現在の部員は20名。部屋に楽器が揃っているので、初心者でも始めやすいといえます。入部後に箏・三弦・尺八それぞれに触れた後、自分の好きな楽器を選びます。2.毎年冬に島根県民会館で行っている定期演奏会の様子。



1.

体力づくりもOK! 気軽に陸上を楽しむ

医科大学時代からの歴史を持つ陸上部。陸上未経験者でも気軽に陸上を楽しめるようにと、選手パート以外にロード、エクサの2パートを設けています。ロードは4~6kmのランニング、エクサは公園を散歩したり、体育館でバドミントンをしたりと体力づくりや運動が主な目的です。選手・ロードパートのメンバーは、西医体や関西医歯薬など医学生の大会だけでなく、全山陰陸上や一畑薬師マラソンなど地元の大会にも積極的に出場しています。「陸上は靴と地面さえあればできる、最も身近なスポーツ。勉強が忙しい医学生だからこそ、気軽に体を動かせる場にしていきたい」と部長の炭本さんが抱負を語ってくれました。

出雲キャンパス

医学部 陸上部



1.

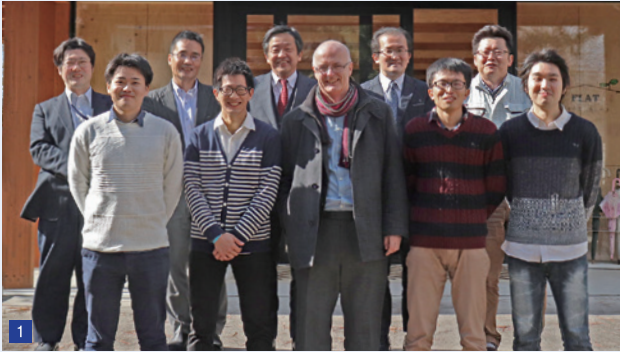


2.

1.現在の部員は55名。選手パートとロードパートは週に3回、エクサパートは週に1回活動を行っています。選手とエクサの中間にあたるロードパートは1年前に新設されました。2.選手・ロードパートのメンバーが練習のはじめにおこなうダイナミックストレッチの様子。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



1



2



3

1. オックスフォード大学 Reed教授(次世代たたら協創センター長:前中央)と2020年8月にオックスフォード大学に派遣予定の学生(前列)、本学教職員(後列) 2. 本プロジェクトでは、世界と戦える、航空機エンジン用素材を島根より発信していく 3. 2019年9月に行われたオックスフォード大学ワークショップの様子(島根大学教職員等が参加)

基金の用途「次世代たたらプロジェクトへの支援」の新設について

本学が取り組んでいる、内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」事業「先端金属素材グローバル拠点の創出-Next Generation Tataro Project-」において、金属材料分野における高度人材の育成と世界最高水準の研究拠点づくりを行うため、用途を新たに開設することとしました。

この寄附は、この分野で活躍が期待される大学院生、学部学生への学業奨励や、連携研究機関であるオックスフォード大学への研修渡航等を支援します。「先端金属素材の聖地・島根」の実現を目指すこの取り組みに是非とも皆さまのご支援をお願い申し上げます!

支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧くださいか、支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でのご請求も承っております。



支援基金HP

TEL 0852-32-6015 <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただき仕組みです。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※令和元年11月16日～令和2年2月15日までに年度内累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

冠寄附

西村 慶代 西村慶代音楽教育振興基金(教育学部音楽教育専攻の教育支援活動)

法人等からのご寄附

株式会社オネスト カナツ技建工業株式会社 島根電工株式会社 東京靴株式会社 中浦食品株式会社 松江土建株式会社

個人からのご寄附

赤間一仁	芦田新典	足立 順	安達美和子	荒瀬 榮	石飛寿夫	石橋直樹	伊藤一孝	伊藤浩世	井上 徹		
稲生田妙子	入江文子	上野 誠	浦田雅司	大島和典	太田勝巳	太田 登	大谷 浩	大野純一	岡田光弘	小川 巖	鬼形和道
加来洋一郎	景山修司	金山富美	河合康則	川路澄人	久保田健二	小林 茂	小山正人	作野広和	澤 嘉弘	地阪光生	島田豊和
須山弘一	高木秀人	高橋 順	高橋洋之	多久和徹	田子幸子	田中敏明	田部 恵	寺脇 茂	寺脇玲子	藤後耕一	長井敦司
永田まち子	名取瑞樹	西山桂二	服部泰直	瀨田 太	廣兼 敦	廣瀬昌博	原田裕司	深田伸太郎	藤川るみ	藤田達朗	藤田嘉治
古野 毅	益田英紀	松浦晃幸	松田伸司	棟石 均	村上啓文	村瀬俊樹	森岡 成	森口基十雄	山口裕之	山崎征爾	山本達之
横井昌治	横田正幸	吉岡宏敏	吉富浩一	吉見 颯	吉木 茂	李 樹庭					

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015(総務課 支援基金担当) <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

春になり新生活のスタートの方もおられるのではないのでしょうか。さて、今号では特集1で国際社会を舞台に活躍できるグローバルな教育、特集3では地域で活躍する学生の取組の報告会、特色ある教育で数理・データサイエンス教育について掲載しました。私自身、島大の卒業生なのですが、自分が在学していた頃とは時代も学びも大きく変わり、今の島大生は海外・地域で活躍し、最新の教育を受けています。このように本学では変動が著しい現代、そして、将来において活躍する学生を育てるために、最先端の教育・研究を推進しています。今号同様、本学での新しい取り組みについて引き続き紹介していく予定にしておりますので今後ともよろしく願いいたします。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報戦略室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP <https://www.shimane-u.ac.jp>

こちらからもアクセスできます



PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工した「柚子ジャム(1瓶)」をプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和2年6月5日(金)必着





2020年4月1日

おかげさまで開局50周年を迎えました。

人を想い、地域を想い、新しい時代に向けて
情報発信し続けます。

TSK さんいん中央テレビ

本社 〒690-8666 島根県松江市向島町140番地1
TEL 0852-20-8888



支社 東京・大阪・広島・西部・出雲・米子・鳥取



GLOBAL
量産工場へ
高機能治具で
モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場
出雲市小境町1700番8 TEL.0853-67-9030
<http://www.gl-b.co.jp/>



人と木を結ぶ

木造住宅の建築に欠かせない

合板の製造で、

国内シェア約30%を持っています。



松江・浜田・境港を中心に
日本一のメーカーをめざしています。

NISSHIN

日新ホールディングス 株式会社

〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル4F

TEL 0852-33-7830

NISSHIN GROUP WEBSITE
<https://www.nisshin.gr.jp>



—あしたへ、未来へ—
地域創造企業

おかげさまで35年目

SHOWA

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。

<http://www.showa00.co.jp/>



建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事

株式会社昭和測量設計事務所

あしたへ 未来へ
求人のお問い合わせは 営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山
【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町832-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本



日本システム開発

〒690-0003
松江市朝日町480番地8
松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175

<https://www.nskint.co.jp/>



こちらからもアクセスできます

多彩な業務で
エンジニアリングを
極めよう!

島根大学総合型選抜



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

へるん HEARN ENTRANCE EXAM 入試[®]



あなたの 学びのタネ

【大学の学びで必要な、特定の領域・事象に
対する強い好奇心と探究心】を重視します。

※「へるん」とは、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン1850~1904)の
ことで、ハーンが滞在した松江では、親しみをこめて今でも「へるん」
と称しています。

ハーンは、文学者・新聞記者・民俗学者・英語教師などとして多方面で
才能を発揮し、異文化の架け橋となりました。「へるん」の魅力と才能
の多様性を、高校生の持つ多様な可能性に重ね合わせました。

入試については、ホームページをご覧ください。

ホームページ入試情報(PCサイト) ▶

[https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/admission_info/
admission_2021/herun_2019_10_16_01.html](https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/admission_info/admission_2021/herun_2019_10_16_01.html)

問い
合わせ先

島根大学 教育・学生支援部 入試企画課 TEL:(0852)32-6073 FAX:(0852)32-9726
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 E-mail:hearn@office.shimane-u.ac.jp

※へるん入試の内容については予定であり、今後変更する場合があります。出願にあたっては、必ず「募集要項」で確認してください。

